

はじめに  
高頻度データの  
収集  
現在の状況  
終わりに

# 市場環境を活用した高頻度データに対する パラメータ選択による 最適なストラテジー構築の選択

木下大輔

富山県立大学 電子情報工学科

December 17, 2021

# はじめに

2/9

## 背景

金融市場の拡大に伴い市場のメカニズムに関する研究の重要性が増している。現在市場の値動きに関する様々な予測手法が研究、開発されているが、値動きは様々な要因が複雑に絡み合っているため全容を明らかにすることは困難である。

## 目的

リアルタイムで取得した Tick データを使用して、複数のインジケーターによってテクニカル分析を行うことで過去の価格や出来高などの要素、さらには他市場が円ドル為替市場に与える影響を考えることで未来の値動きを予測しそれらを用いて自動的に取引する分析手法を考える。

## Meta Trader5

- 今回の実験に使用するプラットフォームは Meta Trader5 (MT5) である。現在世界で最も使用されているトレーダー向けの無料アプリケーションである。
- MT5 にはデモ口座を開くことで、実際の市場をもとに取引シミュレーションを行うことができる。また Python を使用することで MT5 から Tick データと呼ばれるリアルタイムな市場の情報を取得することが可能である。

はじめに  
高頻度データの  
収集  
現在の状況  
終わりに

# インジケータを用いたテクニカル分析

## インジケータ

インジケータは過去の価格の出来高などの要素から未来の価格を予測する手法である。インジケータはトレンド系とオシレータ系の二つがある。トレンド系は現在の相場が上がりやすい傾向であるか下がりやすい傾向であるかを数値化し、オシレータ系は為替レートが上がりすぎか下がりすぎかを数値化する。

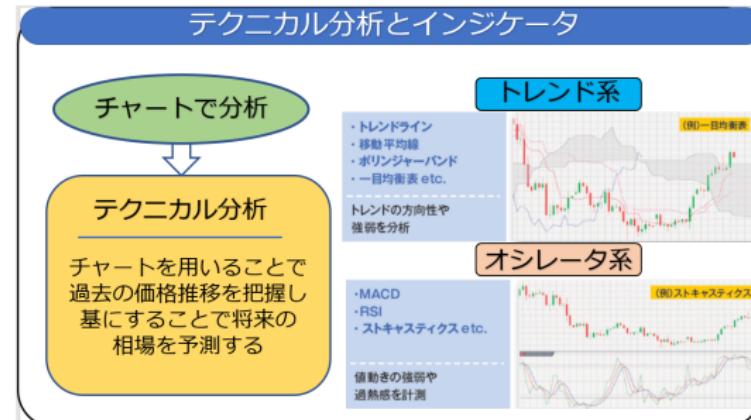


図 1: 様々なインジケータ

## 進捗

- 作成した取引プログラムの稼働と調整。
- 機械学習による売買ルール作成のためのデータセット作成。

はじめに  
高頻度データの  
収集  
現在の状況  
終わりに

# 取引プログラム

はじめに  
高頻度データの  
収集  
現在の状況  
終わりに

為替市場に対する売り買いの判断が色、本来の市場に対する売り買  
いの判断が数字で表されている。グレンジャー因果性がない場合や、  
因果性があったとしても相関が弱い場合は為替市場に対する売り買  
いの判断である色の変化が起こらないようになっている。

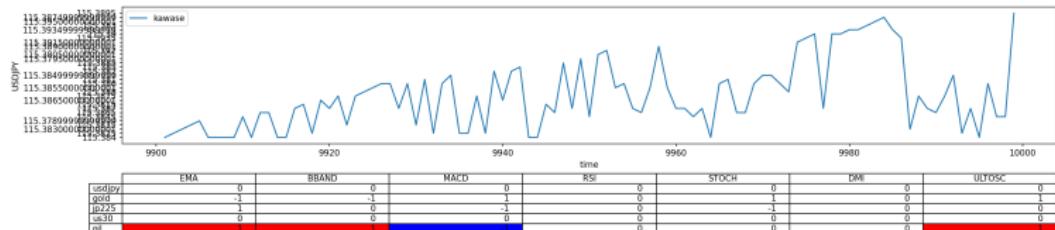


図 2: 実行中のプログラム

# 実行結果

7/9

今回は一分間の時間足を使用して取引を行った。また今まで利確と損切りの幅が手数料分しか違わなかった所を 2pips 分、利確の幅を広げるということを行った。



図 3: 実行結果

## 結果

- 期間: 12月14日から12月16日
- 取引回数: 13回
- 収支: +870円



# ルール作成プログラム

はじめに

高頻度データの  
収集

現在の状況

終わりに

前回の研究会で紹介したデータセットを作成した。

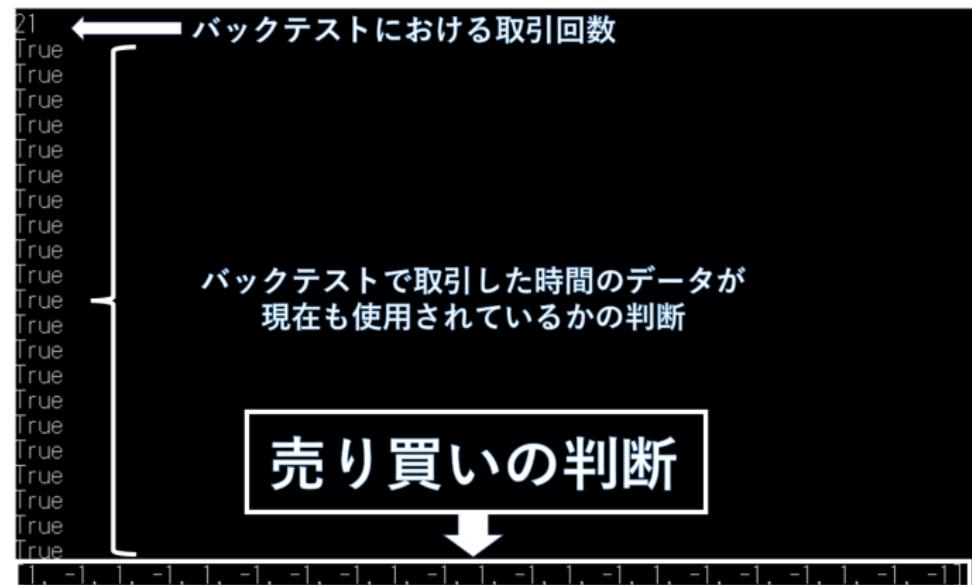


図 4: 作成したデータセット

## まとめ

- データセットを使いやすいように整理する。
- どのような機械学習をデータセットに対して行うかを決定。
- 現在のプログラムと自動売買プログラムを組み合わせたプログラムの作成。

はじめに  
高頻度データの  
収集  
現在の状況  
終わりに